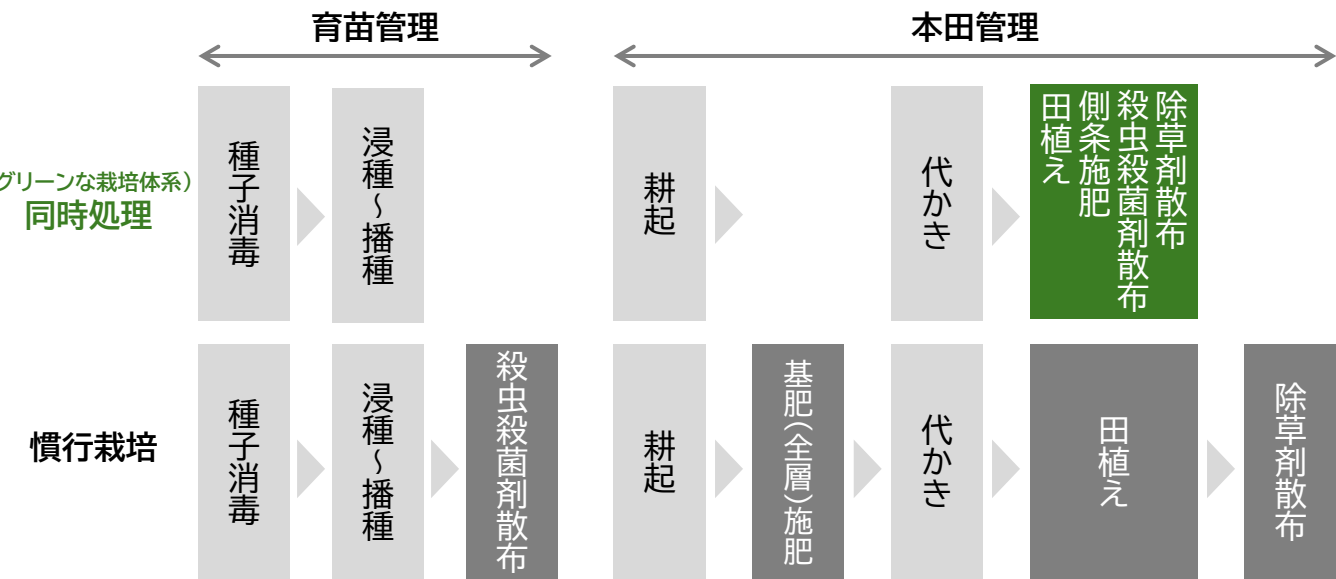


田植え同時処理(側条施肥・田植え同時防除)のポイント

田植え同時処理栽培体系とその利点

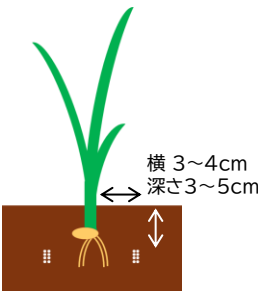
田植え同時処理：田植えと同時に、農薬散布と施肥(側条施肥)を専用の機械で行う方法
作業集約による省力化と、慣行栽培同等の収量を確保しながら施肥量の低減を見込める。



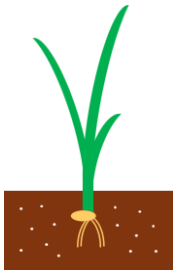
側条施肥について

側条施肥：苗の横3～4cm、深さ3～5cmの位置に、すじ状に施肥をする方法
肥料の利用効率が高いため減肥が可能。肥料成分の流出が少なく、環境に優しい。

(グリーンな栽培体系) 側条施肥



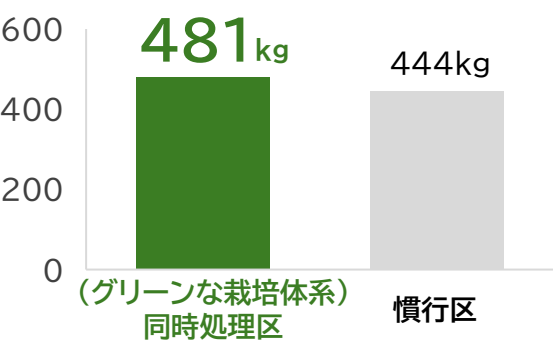
(慣行栽培) 基肥全層施肥



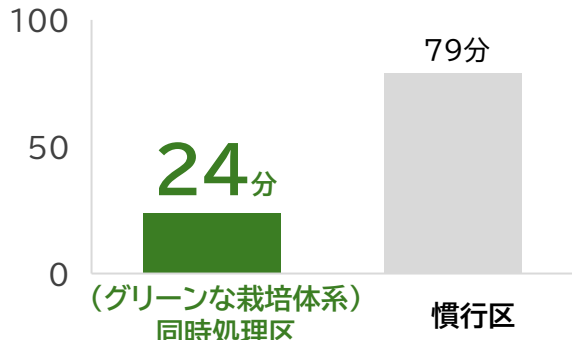
令和6年度実証結果(富岡市丹生地区)

施肥量を低減した同時処理区で、慣行区と同等以上の収量を確保しながら作業時間が3分の1に短縮
試験条件【品種】ひとめぼれ【施肥量】慣行区:4.8kgN/10a、同時処理区:3.8kgN/10a
※富岡市丹生地域の慣行的な施肥量(化学肥料量)を2割減少

収量(玄米重kg/10a)



作業時間(分/10a) ※田植え・施肥・農薬散布時間の合計



側条施肥の留意点

【肥料の選定について】

- 施肥過多で過繁茂にならないよう、全層施肥(慣行)に対し**約2割削減**を目安に減肥する。
- 散布ムラ・肥料詰まりを防ぐため、**側条施肥に適した肥料**を使用する。

側条施肥に
適した肥料



- 粒が球形、直径が2～5mm程度の大きさにそろっている
- 粉の混入が少なく、手でつまんでも、つぶれにくい
- 吸湿性が少なく、べとつきにくく、かたまりにくい

側条施肥に
不適な肥料



- × 粒が不揃い、小粒や砂が多い
- × ペレット等で粒が大きく、球形でない
- × 曇天時に色が変わる、表面が濡れる

【本田と側条施肥機の管理について】

- 施肥深度を安定させるため、**作物残渣は十分にすき込み、均平作業は丁寧に行う。**
- **田植え時の水深は1cm程度の浅水**とする。落水状態や土壌が硬すぎると肥料の埋め込みが悪くなり、深水や土壌が柔らかすぎると肥料が設定位置に落下しないため注意する。
- 車輪のスリップにより株間が狭くなると肥料の覆土が不十分になるため、田植開始時に株間、施肥の深さ、覆土の状態が適切であることを確認する。
- 一定の速度で作業を行い、旋回時は肥料繰出部に泥が詰まらないよう注意する。
- 田植終了後は肥料をホッパーから取り除き、**吸湿・固結による肥料詰まりを防ぐ**。施肥機を丁寧に清掃し、**金属部の腐食防止**に努める。

田植え同時防除(除草剤散布)の留意点

- 田植えと同時に散布できる薬剤は、使用時期が「移植時」、使用方法が「田植同時散布機で施用」であるものに限られるため、薬剤のラベルを確認して使用する。
- **浅植え、浮き苗は薬害の原因**となる。土壌を均平にし、適切な土壌の硬さと水深(1cm程度)、苗の植付深度(3～4cm)で田植えを行うことで、薬剤が直接根に触れることを防ぐ。
- **田植え後は速やかに入水**し3～5cmの水深を確保、**入水後は7日間の止水管理**を行う。田面が露出すると除草剤の効果が十分に発揮されないため注意する。
- 薬害の発生要因になるため、**薬剤散布後の補植は行わない**。



田面の露出により、雑草(コナギ等)が発生した事例